

新潟県卓球連盟

卓球便

vol.48

平成29年2月22日

発行人／新潟県卓球連盟
印刷所／(有)フジプリント
(新潟市)

白根卓球連盟七十周年事業と歩み

白根卓球連盟会長
松尾 正行

平成二十八年十一月十二日に創立七十周年事業を、国内トップレベル選手協和発酵キリンチーム（上田仁・松平賢二）・佐藤真二監督を招待し、技術指導会及び模範試合、記念祝賀会を開催致しました。事業報告前に白根卓球連盟の七十年の歩みを紹介させて下さい。

戦後の混乱期に卓球の愛好者が集まり昭和二十一年に第一回卓球大会を開催し、これを期に呼びかけをつくり昭和二十二年に連盟を立ち上げたと聞いております。当時は終戦直後混乱期で、会場、用具、物、指導者等々を考えても相当な苦労があつ

たと想像できます。これらを乗り越え広く住民に卓球を奨励し着実に連盟が育つて来たと思います。一区切りの三十周年記念を期に県卓球連盟より勧誘を受け、県卓球連盟の白根支部として新たな活動を進めたところです。県卓球連盟の規約遂行の為団体チーム促進を図り、白根クラブ（男子）、白根さつき（婦人）、白根アトム（ジュニア）、高校チーム、実業団チーム（理研、市役所）等々

加盟。平成三年には弱小支部ながらワールドサーキットを手がけ世界を魅了。結成五十周年記念には



全日本社会人選手権連覇（シングル、ダブルス）上田仁選手と松平賢二選手らが講師を努め技術指導と模範試合を白根カルチャーセンター

んブームにのり、招致し普及、ジュニア育成を進めました。以降は振興、技術強化活動として白根アトムジュニアにトレーニングボール無償配給、地元チームを中心にマシン贈呈（白根アトム、各地元中学校）、及び技術向上のため指導支援を図り県のトップレベル、全国大会出場する選手を輩出しております。

平成十七年政令指定都市・新潟市となり、新潟市卓球連盟と歩調をあわせ白根卓球連盟発展はもちろん新潟市卓球連盟の活動にも参画、及び南区体育協会とも連携強化、卓球を初め各種スポーツ団体とも交流を深めております。新潟市卓球連盟の活動にも、心を一つに積極的に事業を遂行し新潟国体障害者）、日本リーグ、ドリームマッチ大会等々と一緒に手がけ活動を展開しました。

創立七十周年記念イベントでは、全日本社会人選手権連覇（シングル、ダブルス）上田仁選手と松平賢二選手らが講師を努め技術指導と模範試合を白根カルチャーセンター

で開催しました。シンニア、ジュニアまで幅広い層が参加し、延べ総勢二〇〇人（地元中心）が迫力あるプレーを堪能したところであります。祝賀会では全員の記念撮影から始まり南北区長、新潟県卓球連盟会長、新潟市卓球連盟会長より祝辞をいただき、来賓の紹介、南区体育協会副会長の乾杯と続きました。懇談の中ごろ佐藤真二監督、上田選手、松平選手からご挨拶、セールスポイントなどアピールしていただきその後、白根卓球連盟より今年度全日本社会人優勝の御祝も行いました。

終わりに、関係各位の御協力にはほんとうに感謝いたしますと同時に卓球が益々盛んになることを期待して報告と致します。



第47回全国中学校卓球大会

●平成28年8月21日(日)～24日(水)

●富山県高岡市竹平記念体育館



新潟県中学校体育連盟
卓球専門部部長
比護 洋平

[講評]

今年度の全中は北信越ブロック開催となり、北信越大会と同会場で行われた。コンパクトな会場であり、観覧席や駐車場も少なかったものの、できる限りの運営をされていた。競技員・補助役員の動きもよく、スムーズであった。

開会式前の監督会議の中で指導者

表彰が行われた。開催プロックにおいて選手育成に功績を残された優秀指導者を表彰するというので、数年前より始まっている。今年は、新潟県から大滝浩資先生が表彰された。昭和四十九年度全国大会男子団体優勝をはじめとする複数校でのご活躍や、長年新潟県中学生の指導育成に尽力されたことが受賞理由である。大滝先生のすばらしい指導力と変わらぬ情熱を手本とし、我々も指導者としての力量を高めていきたい。



競技を見ると、男子は一〇〇%近くがシェークハン

ドであり、そのほとんどが両面裏フットの攻撃型である。数年前と比べ、台上バックハンドからのレシーブも明らかに増えている。一方、女子はプレースタイルが多彩で、カツトマンも多い。また、巻き込みサービスからの展開が多く見られた。

団体戦は、ダブルスがやはりポイントとなつておらず、各チームも相当訓練を積んでいると感じた。どのペアも、サービスを持つたら三球目をつなぐことはほとんどなく、攻撃を仕掛けていた。

女子団体の予選リーグでは、公立中学校の玖珂中（山口県）と明徳義塾中（高知県）との対戦が会場の注目を集めていた。玖珂中は、ツブ高と表ソフトを駆使したプレーで、明徳義塾中を二一二と追い詰めた。全国レベルにおいても、異質プレーで充分勝負ができると感じられる試合であつた。

新潟県勢は個人戦のみの出場であった。男子個人は、清野、堀（いずれも新発田第一）、米田（葛塚）、渡辺（糸魚川）の四名が出場した。

渡辺は一ゲーム目をジュースで落としたのが響き、一回戦で惜敗した。米田はサービス・レシーブから先手を取り、連続攻撃が冴えて初戦を突破した。二回戦では、二一〇と先制したものの逆

転され、惜しくも二二三で敗退した。堀は危なげなく三回戦進出。経験の豊富さが感じられた。三回戦では、強豪愛工大付属中の選手との対戦で、ボールが合わずには重なり、涙を飲んだ。

日本卓球協会推薦出場の清野は、前陣での安定感のある両ハンド攻撃が決まり、四回戦へ進出。愛工大付属中の選手と対戦した。フォアアクロスの打ち合いから、威力のあるボールを先にストレートへ打ち込まれてしまつた。敗れはしたもの、堂々のベスト十六入りである。

女子個人では、相馬（葛塚）、近藤（吉田）、立川（龜田）、の三名が出場した。近藤、立川は、健闘したものの初戦敗退となつた。それぞれ二年生、一

[成績]

〈男子個人〉

- 1回戦
○米田 悠(葛塚) 3-0 前原椿樹(東京・東梅大菅生)
○堀 千馬(新発田第一) 3-0 寺下真尋(青森・三条)
×渡辺 凱(糸魚川) 0-3 佐藤祐人(山形・鶴岡第二)
- 2回戦
×米田 悠(葛塚) 2-3 大島史也(愛知・愛工大附属)
○堀 千馬(新発田第一) 3-0 芝 優人(京都・桂)
○清野晃大(新発田第一) 3-0 中原湧斗(鹿児島・米ノ津)
- 3回戦
×堀 千馬(新発田第一) 1-3 篠塚大登(愛知・愛工大附属)
○清野晃大(新発田第一) 3-1 景山拓海(鳥取・境港第一)
- 4回戦
×清野晃大(新発田第一) 0-3 堀川敦弘(愛知・愛工大附属)

ベスト16

〈女子個人〉

- 1回戦
×立川朋佳 0-3 小林光優(神奈川・宮内)
×近藤愛花 0-3 麻生麗名(大阪・昇陽)
- 2回戦
○相馬夢乃(葛塚) 3-0 田中木葉(福岡・中間東)
- 3回戦
○相馬夢乃(葛塚) 3-0 田村美佳(兵庫・向洋)
- 4回戦
○相馬夢乃(葛塚) 3-1 徳田明梨(高知・明徳義塾)
- 5回戦
○相馬夢乃(葛塚) 3-2 菅津柚花里(大阪・四天王寺)
- 準決勝
×相馬夢乃(葛塚) 1-3 長崎美柚(東京・稻付)

3位

バタフライは世界卓球2012～2016の公式用具スポンサーです。



卓球台:2012年、2014年、2016年 / ボール:2013年、2015年





年生での出場である。この経験を次年度に生かしてもらいたい。
北信越チャンピオンの相馬は、非常に安定感のあるカットプレーで勝ち上がつていった。球質の変化で相手のミスを誘い、時折放つ強打で得点を重ねていった。準々決勝は、フルゲームにもつれる大接戦となつた。相手サービスに苦しみながらも粘り切り、最後はジュースで見事な勝利を収めた。準決勝では、優勝した長崎(東京・稻付)に一ー三で敗退したものの、堂々の三位入賞を果たした。新潟県としては史上初の快挙である。二年生であるため、来年度は全国の頂点を目指してもらいたい。

平成三十年度には、全国中学校選抜大会が新潟県で開催される予定である。すでに検討委員会や指導者講習会を数回実施するなど、全国選抜大会に向けて動き出している。新潟県卓球連盟やクラブチームとの連携をとりながら、選手の育成はもちろん、指導者の育成も図つていきたい。

「きびじアリーナ」練習時に五十台の卓球台が並ぶ様は壮観でした。(フェンスで囲うため試合時は二十八台になります。)また、体育馆のサブアリーナが選手控え室と表彰場所になつていきました。近くの武道館を始めとして近隣の高校、小学校が練習会場になつており、インターハイとは町全体で行われる大会なのだなあと強く思わされました。

今年のインターハイは岡山県総社市にある総社市スポーツセンター(きびじアリーナ)において行われました。JR総社駅からシャトルバス(きびじアリーナ)で十分程度の会場です。多くの人がシャトルバスを利用し、三台のバスだけではさばききれず、他にマイクロバスを出したりと係の方々がたいへん忙しそうにしていました。歩くと三十分くらいかかりますので、行き来は少し不便ですが小さな町の大好きな体育馆、とってもアットホームな印象でした。新潟県にもこのような大きな体育馆があればなあとうのが素直な感想です。

〈男子学校対抗〉

1回戦 開志国際 3ー2 倉敷工業(岡山県)
2回戦 開志国際 2ー3 明徳義塾(高知県)

〈男子ダブルス〉

1回戦
渡辺 韶(新潟産大附) 3ー0 松井充輝(千葉・千葉商大付)
今井洋気 山下 慧
片桐友翔(新潟産大附) 1ー3 山本 颯(滋賀・近江)
小唄周平 藤田一平
2回戦
渡辺 韶(新潟産大附) 2ー3 中井柊斗(兵庫・滝川第二)
今井洋気 田中力也

〈男子シングルス〉

1回戦
今井洋気(新潟産大附) 2ー3 野宮一輝(青森・弘前実業)
石山 憐(開志国際) 1ー3 藤本聖也(香川・尽誠学園)
王 景浩(新潟産大附) 0ー3 林中和希(兵庫・滝川第二)
小唄周平(新潟産大附) 2ー3 佐藤弘毅(高知・明徳義塾)
渡辺 韶(新潟産大附) 3ー0 坂本来太(埼玉・寄居城北)
2回戦
渡辺 韶(新潟産大附) 1ー3 飯沼周也(岐阜・富田)

〈女子学校対抗〉

1回戦 新潟産大附 1ー3 華頂女子(京都府)

〈女子ダブルス〉

1回戦
佐藤鈴捺(新潟産大附) 0ー3 松田未咲(愛媛・濟美)
佐藤千華 篠崎彩乃
和仁ももこ(新潟産大附) 3ー0 蛭名 梓(青森・弘前実業)
相馬天音 中井清か
2回戦
和仁ももこ(新潟産大附) 0ー3 梅村優香(大阪・四天王寺)
相馬天音 塩見真希

〈女子シングルス〉

1回戦
相馬天音(新潟産大附) 0ー3 高橋優花(広島・広島商業)
和仁ももこ(新潟産大附) 3ー0 有本ひかる(香川・尽誠学園)
清水千聖(開志国際) 3ー0 澤田佳苗(兵庫・育英)
佐藤鈴捺(新潟産大附) 3ー1 山口 萌(佐賀・佐賀商業)
2回戦
和仁ももこ(新潟産大附) 3ー0 篠田優花(大分・明豊)
清水千聖(開志国際) 0ー3 黒野葵衣(東京・武蔵野)
佐藤鈴捺(新潟産大附) 1ー3 山本真由(岡山・就実)
3回戦
和仁ももこ(新潟産大附) 1ー3 岡崎日和(埼玉・川口総合)

平成28年度全国高等学校総合体育大会卓球競技大会
●平成28年7月31日(日)~8月5日(金) ●岡山県総社市スポーツセンター体育館「きびじアリーナ」



連員長
体委員会
県専門部
新潟卓球
松本 滋

大会期間も非常に長いです。七月三十日公開抽選日、七月三十一日開会式、八月一日団体初日、八月二日ダブルス初日、三日シングルス初日、四日は団体決勝、シングル五回戦まで、五日が最終日、まるまる一週間かかります。また岡山の会場はクーラー施設がもともとないらしく仮設の冷房がぎりぎりとたちならびました。会場はかなり冷えていました(あとで聞くとすごい値段らしいですが…)

男子団体戦は開志国際が一回戦岡山県の倉敷工業に三ー二で勝利、二回戦が高知の名門である明徳義塾に二ー三で惜しくも負けました。一回戦五番山田君のフルセット勝負は見ていてハラハラドキドキでした。まさに一進一退の攻防です。よく粘り勝ちした素晴らしい試合でした。二回戦は惜しくも負けましたが、新潟県も全国で十分戦えるという気持ち

にさせてくれるいい試合でした。女子団体戦は新潟産大附が京都の華頂女子に一ー三で敗れました。大会初日、勢いに乗れずに終わつてしまつた感がありました。

男子ダブルスは渡辺・今井組(新潟産大附)が一回戦兵庫滝川第一の中井・田中組に二ー三、片桐・小唄組(新潟産大附)が滋賀近江の山本・藤田組に一ー三でした。それぞれ惜しい試合で残念でしたが、一点の重みを感じさせるいい試合でした。打つべき所で守つてしまつたり、守るべき所で打ちミスしたりと、ほんのちょっとしたミスが試合の流れを変えてしまうことがあり、全国大会は本当にほんの少しのところでせりあつている、レベルが高く差の小さい試合が多いのだなと感じました。だからこそ少しの欠点を見ると相手がつけ込んでくるし、逆にそれを見たらつけこまなければならないのだなと感じさせられました。

女子ダブルスは佐藤・佐藤組(新

（新潟産大附）が済美の松田・篠崎組に〇一三。和仁・相馬組（新潟産大附）は二回戦第二シードの梅村・塙見組（四天王寺）に〇一三でした。が、三ゲーム目九本までとり、もう少しで勝負をしているのだと思います。した。全国上位者に臆せず立ち向かっていく姿はすばらしいと思います。ほんのちょっとした迷い？躊躇？で差がついてしまったようにも感じます。それだけ紙一重のところで勝負をしているのだと思います。

男子シングルスでは渡辺選手（新潟産大附）が二回戦進出。他選手も遜色ない力をもちながら、それをなかなかだしきれなかつたりするインハイの難しさを感じさせられました。

女子シングルスでは和仁選手（新潟産大附）が二回戦進出。自分の得意なパターンに持つていったときの強さが光っていました。全国ではやはり特長がないと勝ちにくいということもまた感じさせられました。

監督・コーチ、先生方は、全国大会での一勝の重みを感じつつ日々努力されているのだということを改めて認識させられます。県内大会で強くて全国大会では、また違う波にのらないと勝ちきれない。続いているようで全く違う次元での戦いを要求されるのだと感じます。先生方の日々の努力が、新潟県のますますの発展につながることを信じて応援しております。初めてインハイを観戦させていただきました。この貴重な機会を与えていただき感謝いたします。ありがとうございました。

平成二十八年指導者講習会



三条支部卓球部 長沢 真

去る十月二十二日、三条市栄体育館において昨年に引き続き仲村錦治郎氏を講師に迎え指導者講習会が開催され、県内指導者及び帶同選手九十七名参加し、実施されました。

意なパターンに持つていったときの強さが光っていました。全国ではやはり特長がないと勝ちにくいということもまた感じさせられました。

仲村錦治郎氏のイメージとしては、「卓球王国」にも連載された「神のサビス」「神のレシーブ」から、特にサービスの名手という印象が強いのではないかと思われます。





等の紹介がありました。ボールタッチの共通点が多いというけん玉の披露があり、その名人芸にも会場の選手たちは喝采と拍手を贈っていました。

午後は主に得意のサーキスについての講習です。床の上でとにかく回転をかけることが出来るようとの練習が大事だということから始まり、フェイクモーションについての説明、また実際にサーキスを実演し参加者全員にレシードブ



だつたのは、「弱く打つ技術」を力説していいた点です。とかく指導者や選手は強いボール(すごいボール)を打つことに拘つてしもうところ



トマン攻略法について国際大会での団体戦において、団体戦メンバーやの攻撃選手が勝てなかつたカツトマンに松下浩二選手が攻めて勝つた時の作戦の紹介等の話がありました。

途中で、トランプマジックについても非凡な才能?を見せ、選手が退屈しないような工夫が感じられました。参加者は選手が多数、だつたせいもあり、指導者講習会というよりも技術講習会的でした。が、話術も巧みであり非常に解りやすかつたという印象です。



ドリームマッチを開催して



新潟大学卓球部
平松 大知

この度、第五回「日本リーグ・日本学連対抗」卓球ドリームマッチにおいて新潟大学学生責任者を務めさせていただいた平松です。学生の責任者として学生への指示が中心であり、実際の大会の運営は新潟市卓球連盟の皆様が中心となつて行つていただき、私たち学生は運営のサポートに当りました。私たち新潟大学卓球部はこれまでに「北信越学生卓球選手権大会」や「関東甲信越大学体育大会」といった大学生対象の卓球大会の運営を多々経験してきましたが、このようなドリームマッチといつた大きな大会の運営に携わることはほとんどありませんでした。そのため今回、ドリームマッチの運営に携わることで多くのことを学ばせていただきました。

今回、新潟県の東総合スポーツセンターで開催されたドリームマッチには、実際、会場に足を運んでくださいました。そのため今回、ドリームマッチの運営に携わることで多くのことを学ばせていただきました。

この度、卓球ドリームマッチにおいて新潟大学学生責任者を務めさせていただいた平松です。学生の責任者として学生への指示が中心となり、卓球連盟の皆様が中心となつて行つていただき、私たち学生は運営のサポートに当りました。私たち新潟市卓球連盟はこれまでに「北信越学生卓球選手権大会」や「関東甲信越大学体育大会」といった大学生対象の卓球大会の運営を多々経験してきましたが、このようなドリームマッチといつた大きな大会の運営に携わることはほとんどありませんでした。そのため今回、ドリームマッチの運営に携わることで多くのことを学ばせていただきました。

この度、卓球ドリームマッチにおいて新潟大学学生責任者を務めさせていただいた平松です。学生の責任者として学生への指示が中心となり、卓球連盟の皆様が中心となつて行つていただき、私たち学生は運営のサポートに当りました。私たち新潟市卓球連盟はこれまでに「北信越学生卓球選手権大会」や「関東甲信越大学体育大会」といった大学生対象の卓球大会の運営を多々経験してきましたが、このようなドリームマッチといつた大きな大会の運営に携わることはほとんどありませんでした。そのため今回、ドリームマッチの運営に携わることで多くのことを学ばせていただきました。

この度、卓球ドリームマッチにおいて新潟大学学生責任者を務めさせていただいた平松です。学生の責任者として学生への指示が中心となり、卓球連盟の皆様が中心となつて行つていただき、私たち学生は運営のサポートに当りました。私たち新潟市卓球連盟はこれまでに「北信越学生卓球選手権大会」や「関東甲信越大学体育大会」といった大学生対象の卓球大会の運営を多々経験してきましたが、このようなドリームマッチといつた大きな大会の運営に携わることはほとんどありませんでした。そのため今回、ドリームマッチの運営に携わることで多くのことを学ばせていただきました。

SAN-EI
Les yeux bleus レ・ユ・ブルー 青の瞳

ブルー卓球台の誕生から四半世紀。
新たな色をもった卓球台の誕生です。
澄んだブルーに奥深いグリーンが融合するその色は
プレーヤーはもとより、会場、映像、観客のすべてを引き込む
次世代の卓球のイメージをさらに躍進させるカラーです。

株式会社 三英
www.sanei-net.co.jp

ヤーの試合を観戦していました。ドリームマッチは、単に試合において勝敗による優劣を決定する一般的な大会ではなく、以上のような二つの目的を達成しなくてはならない大会だと思います。目的を達成するには、どのような運営を行なう必要があるか考えなくてはなりません。新潟県卓球連盟の役員の皆様は非常に綿密に計画を練り大会を運営していました。私たちもこれまで様々な大会を運営してきてその都度、頭を悩ませ計画を立てきましたが、失敗をすると私は考えました。一つ目の目的は、もちろんこれから卓球界を担つていくこととなる日学連の選手たちと、現在活躍している日本リーグの選手たちが試合をし、お互いの競技力向上へ繋げていくことです。そしてもう一つの目的は、新潟県の卓球界をより盛り上げることにあつたと私は思います。このような日本のトップ選手たちの大会を新潟県で開催できることは非常に貴重な機会であり、とてもありがたいことです。日本リーグの選手も日学連の選手も自分たちの競技力向上のためだけに試合をするのではなく、観客のためにもプレーをしてくれていたと思います。実際、会場に足を運んでくださいました。そのため今回、ドリームマッチの運営に携わることで多くのことを学ばせていただきました。

この度、卓球ドリームマッチにおいて新潟大学学生責任者を務めさせていただいた平松です。学生の責任者として学生への指示が中心となり、卓球連盟の皆様が中心となつて行つていただき、私たち学生は運営のサポートに当りました。私たち新潟市卓球連盟はこれまでに「北信越学生卓球選手権大会」や「関東甲信越大学体育大会」といった大学生対象の卓球大会の運営を多々経験してきましたが、このようなドリームマッチといつた大きな大会の運営に携わることはほとんどありませんでした。そのため今回、ドリームマッチの運営に携わることで多くのことを学ばせていただきました。



二〇一六年十月二日、第七十一回国民体育大会二〇一六希望郷いわて国体が岩手県奥州市総合体育館で開催され、私は新潟県卓球成年女子



新潟県卓球
成年女子チーム
王 舒



チームの一人として試合に参加させていただきました。

今回のチームメンバーは全員新潟産業大学附属高等学校の卒業生で新潟県の名を背負い、試合に臨みましたので、とつても絆の強いチームだと私は感じました。

今年成年女子は各ブロック大会を通過した二十チームをA、B、C、D、四グループに分けられ、五チーム総当たりでリーグ戦を行い、リーグ一位は準決勝へ、リーグ二位は五位決定戦へ進出するという試合ルールとなっています。

私たち新潟県は青森県、福岡県、愛媛県、神奈川県と同じリーグで試合を行っています。

合を行いました。どの県も日本トップレベルの選手を揃えており、簡単に勝てる試合は一つもありませんでした。それでもチームメンバーそれぞれが力を尽くして、お互い声を掛け合い、一試合一試合全力で戦いました。どの試合でも接戦にはなりましたが、結果として勝利を手にする



ことができませんでした。今回の試合は悔しい結果となりましたが、しかし、試合を通して、自分たちの技術、戦術、精神的な面でまた不足なところを見つけることができました。

これからはそれぞれの会社、学校に戻り、技術と戦術を磨き、また来年の国体で良い成績を目指して頑張りたいと思います。

最後に、私たちを応援してくれた方々、私たちを支えてくれた新潟県卓球連盟の方々、成年女子の監督、コーチにお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。



第七十一回国民体育大会 2016希望郷いわて国体

希望郷いわて国体に参加して

選手：宮澤業大学、予備登録：渡辺樹（専修大学）のメンバーで本戦に臨みました。
一回戦は島根県と対戦し、三一〇で勝利しました。二二



成年男子監督
牛山幸彥

平成二十八年度の国民体育大会卓球競技は岩手県奥州市において十月二日から「希望郷いわて国体」として開催されました。本年度、成年男子は北信越国体を経ずにストレート参加種目であり、監督・牛山幸彦（新



は恵まれたと言つたけではあります
せんでした。三回戦は日本リーグ
一部住友金属物流の選手で固めた
和歌山県との対戦で、〇一三で敗退
したものの中の内容のある試合でバス
ト十六という結果を修めることが
でき、持てる力を最大限以上に発
揮できたものと思われます。
この様な成果を上げられたのも
選手二名の母体監督である小黒氏を
コーチに起用した事と、王凱主将の
リーダーシップによるチームワーク
の賜物であると考えております。
コーチと選手自身の意見を十分に考
慮し、調整方法とオーダーに配慮す
るなど、日常とのコンディションの

回戦は栃木県と対戦し三一で勝利しました

差や選手の個性を把握する事でそれ
ぞれの持ち味である宮澤僚太選手の
相手をあきらめさせるプレー、齋藤
駿介選手のハイセンスなプレーを十
分に引き出すことが出来ました。そ
れに加え、予備登録である渡辺樹選
手の献身的なサポートもあり、大会
前の練習と大会期間中のベンチの
ムードも大変良い状態で本団体を迎
え、そして終えることが出来ました
また、本戦直前に協和発酵キリン
において最終調整をさせて頂いたこ

支援・ご協力頂いた新潟県卓球連盟役員をはじめとする関係者の方々にも感謝申し上げ、希望郷いわて国体のご報告とさせていただきます。

原点回帰



原点回帰

手国体卓球競技に出場するにあたり、少年男子は「ベスト四入賞」の目標を掲げてスタートしました。選手は選考会等の結果から龍崎東寅選手（エリートアカデミー／帝京）、渡辺響選手（新潟産業大学附属高等学校）、石山慎選手（開志国際高等学校）、予備登録選手に王景浩選手（新潟産業大学附属高等学校）の四人で目指すことになりました。

しかし、その目標を達成するためには本国体に出場する権利を得なければいけません。今年度の少年男子は北信越国体を二位以上で通過しなければなりませんでした。北信越の予選を勝ち抜くために、新潟産業大学の学生に練習相手を務めていたただき試合に臨みました。試合では、くなど様々な方からサポートをいたしました。大変ありがとうございました。

本国体に向けて、選手全員母体が

国体を終えて



新潟産業大学
附属高等学校 教諭

山岸 健弥

違うことが大変でしたが、毎週のように強化遠征、合宿を行い本国体に向けて準備しました。チームの雰囲気もとても良かつたため、県の代表としての自覚を持ち強い気持ちで一番に望むだけとなりました。

本国体の少年男子は十六県が出場し、各四県の四つのリーグで争うこととなりました。リーグを一位で勝ち進むと目標である「ベスト四」入賞となるため予選リーグを勝ち進むことが必須となりました。新潟県は抽選の結果、山口県、福岡県、山形県の三県と戦うこととなりました。どの県も全国上位に入る力を持つているため、厳しい試合になることが予想されました。

結果としては、福岡県に三対一で勝利を収めたものの、山口県と山形県に二対三で破れ予選リーグ三位といった結果でした。龍崎選手が八戦全勝と実力通りの力を発揮してくれましたが、渡辺選手、石山選手が波に乗りきれずに二人で一勝といった結果でした。選手は奮闘してくれたことは大変満足しています。

今大会では目標達成はかないませんでしたが、多くの方々にサポートしていただき大いに成長することができました。

私は、岩手国体では、その規模の大きさにとても驚きました。特に、開会式では、一生の思い出となる素晴らしい体験ができました。全競技者が開会式には参加しているので、今はあの頃より成長できていると思います。

私は、岩手国体に出演できて、とても貴重な経験をすることができました。そしてこの経験をこれから先につなげていきたいです。また、もし国体に出演することができたら、岩手国体の経験を生かして、次こそはチームに貢献できるように、これからも努力し続けたいです。



国体に参加させていただいた感想



新潟産業大学
附属高等学校

渡辺 韶

埋めつくされるほど多くの人がいたことです。そして、私たち新潟県選手団が歩いていると、「がんばれ！」といがた！」と地元の応援団の人たちが大きな声で応援してくださいました。それにはすぐ感動しました。また、吹奏楽の演奏があつたり、天皇陛下のお話を聞くことができたり、すごく応援してもらっていることを感じられるような開会式でした。

私は昨年、岩手国体の卓球競技に出席しました。熾烈な県の選考会を抜け、北信越国体を通過して岩手国

勝利を収めたものの、山口県と山形県に二対三で破れ予選リーグ三位といった結果でした。龍崎選手が八戦全勝と実力通りの力を発揮してくれましたが、渡辺選手、石山選手が波に乗りきれずに二人で一勝といった結果でした。選手は奮闘してくれたことは大変満足しています。

今大会では目標達成はかないませんでしたが、多くの方々にサポートしていただき大いに成長することができました。

開会式が始まると、各県選手団がまとまって入場行進をしました。そこで驚いたのは、競技場に入場したら観客席が

